

「きしら宇美亀ロケット」打ち上げ成功

―千葉工業大学小型ハイブリッドロケット（C001号機）―



◀打ち上げ当日の様子は
YouTubeで見ることができます！



「宇宙産業に係る人材育成に
関する包括連携協定」
この取り組みは、千葉工業大学と
肝付町が昨年6月に締結した「宇宙
産業に係る人材育成に関する包括連
携協定」に基づく初の試みです。
肝付町では、宇宙教育拠点化を目
指し、本町をフィールドにしたロ
ケット打上げ等の宇宙教育活動や地
元の子どもたちへの宇宙教育などに
取り組んでいます。
千葉工業大学に加え、九州工業大
学、和歌山大学、第一工科大学とも
同協定を締結しており、将来にわ
たつてさまざまな連携が期待されま
す。



「千葉工業大学と地域が
手を取り合った宇宙への第一歩」

5月4日、快晴の空の下、岸良海岸に
て「きしら宇美亀ロケット」の打ち上げ
が行われ、見事に成功しました。地元
の皆さんの協力のもと、町内外からお
よそ300名が集まり、ロケットの飛行を
見守りました。

このロケットは、千葉工業大学の学生
や研究者たちが開発した、全長およそ1.5
メートルの小型ハイブリッドロケットで
す。ABS樹脂を燃料、亜酸化窒素を酸
化剤として使用し、目標高度170メー
トルへの打ち上げに成功しました。
ロケットは目標高度に到達後、洋上に
パラシュートで着水。海上ではフロート
が膨らみ、回収班が無事に機体を回収し
ました。



▶打ち上げ準備完了



▶無事回収

▶回収後は打上実験報告会
を行いました



回収後、千葉工業大学の和田豊教
授は、「肝付町で初めての打ち上げ。
地元の皆さまのご理解とご協力がな
ければ、このような貴重な実験は実
現できませんでした。心より感謝申
し上げます。今後も肝付町の皆さん
と手を取り合いながら、宇宙を目指
す取り組みを続けていきたいです。」
と、成功への喜びと地域への感謝の
気持ちを語りました。
大学と地域が手を取り合った宇宙
への第一歩は、
未来に期待の膨
らむ大きな一歩
となりました。



▲和田教授

地域と連携した打ち上げ準備

打ち上げにあたり、住民説明会を実施しました。
打ち上げには、地元住民、漁協、地元団体の皆
さんに、ご理解とご協力をいただきました。
また、交流会にはたくさんの方から激励のお言
葉をいただきました。ありがとうございました。

住民説明会



地元交流会



ロケットの名前は「きしら宇美亀」！

今回のロケットには、地元の小中学生によって
命名された「きしら宇美亀（うみがめ）」という愛
称がつけられました。岸良の浜辺で見られるウミ
ガメにちなんでおり、機体側面にはかわいらしい
ウミガメのイラストも描かれています。

打ち上げに使用された実機は、和田教授が児童・
生徒に贈呈しました。

